

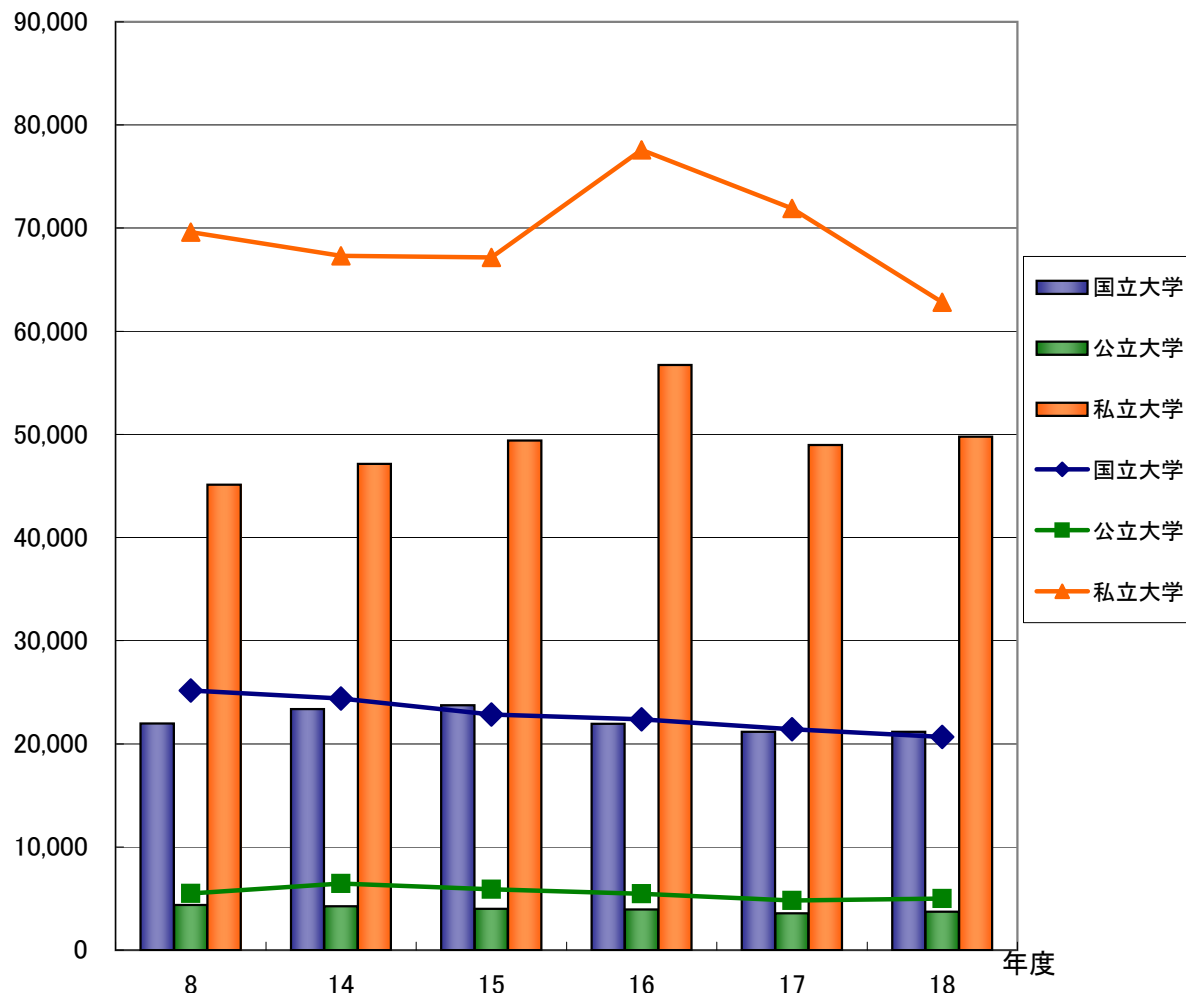
## — 基礎資料 —

・ 図書館資料費及び図書館運営費	27
・ 大学総経費に占める図書館資料費及び図書館運営費の割合	28
・ 電子ジャーナルの総利用可能種類数と平均利用可能種類数	29
・ 電子ジャーナルに係る総経費と平均経費	30
・ 洋雑誌の総購入種類数と平均購入種類数	31
・ 洋雑誌の総購入経費と平均購入経費	32
・ オープンアクセスに関する声明～新しい学術情報流通を目指して （平成21年3月16日 国立大学図書館協会）	33
・ 学術機関リポジトリ構築連携支援事業	34
・ オープンアクセスに関連する取組み	35
（参考）	
・ NII-ELS	36
・ SPARC Japan	38
・ J-STAGE・Journal@rchive	39

# 図書館資料費及び図書館運営費

(出典: 学術情報基盤実態調査)

百万円



・ 図書館資料費 (各年度実績) (棒グラフ)

単位: 百万円

年度	8	14	15	16	17	18
国立大学	21,960	23,379	23,726	21,937	21,158	21,167
公立大学	4,366	4,260	3,995	3,928	3,564	3,727
私立大学	45,111	47,145	49,416	56,720	48,979	49,791
合計	71,437	74,785	77,137	82,585	73,700	74,685

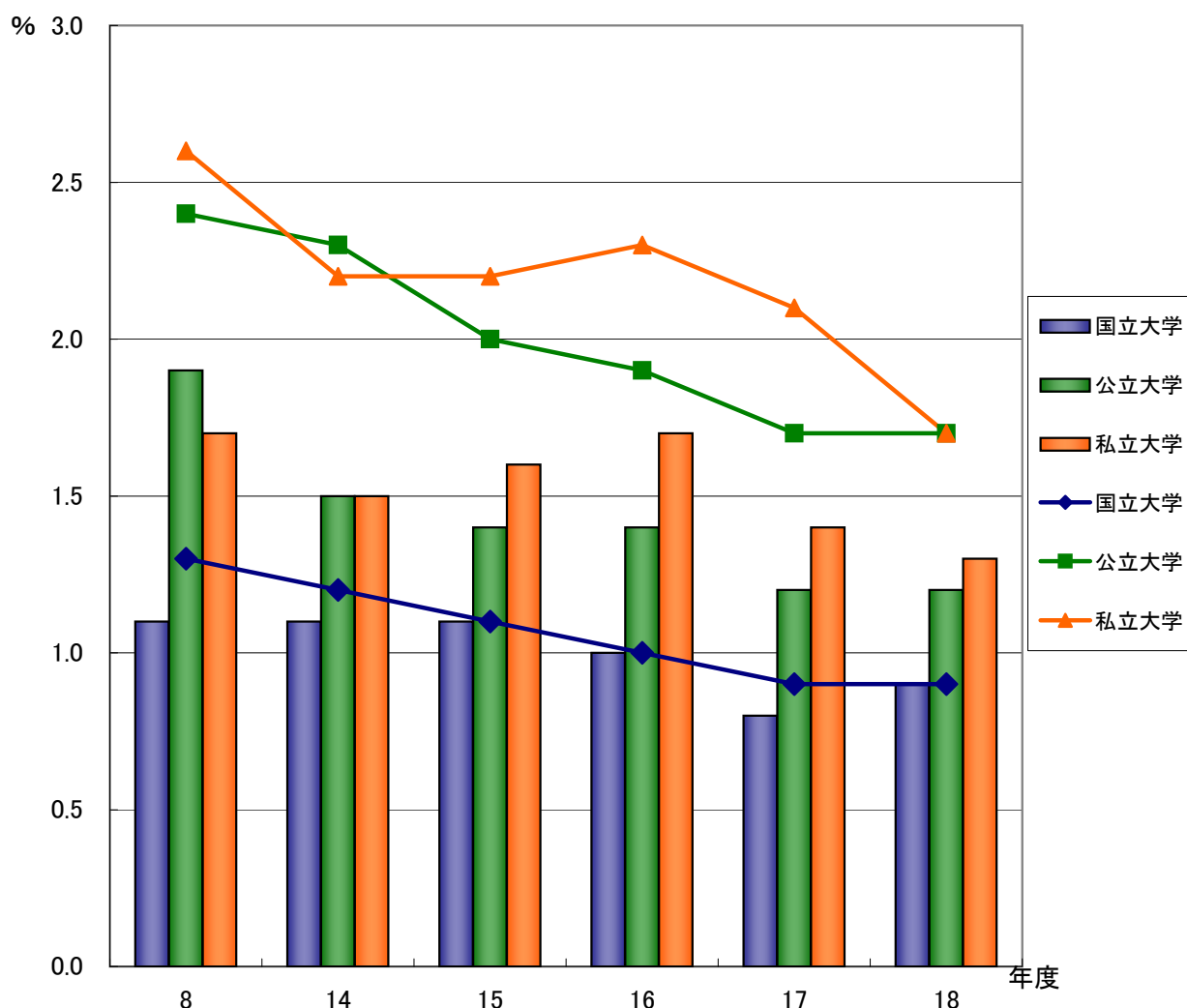
・ 図書館運営費 (各年度実績) (折れ線グラフ)

単位: 百万円

年度	8	14	15	16	17	18
国立大学	25,179	24,383	22,848	22,381	21,405	20,659
公立大学	5,498	6,466	5,887	5,448	4,800	4,985
私立大学	69,611	67,314	67,146	77,576	71,903	62,819
合計	100,284	98,163	95,880	105,405	98,108	88,463

# 大学総経費に占める図書館資料費及び図書館運営費の割合

(出典: 学術情報基盤実態調査)



・大学総経費に占める図書館資料費の割合 (各年度実績) (棒グラフ) 単位: %

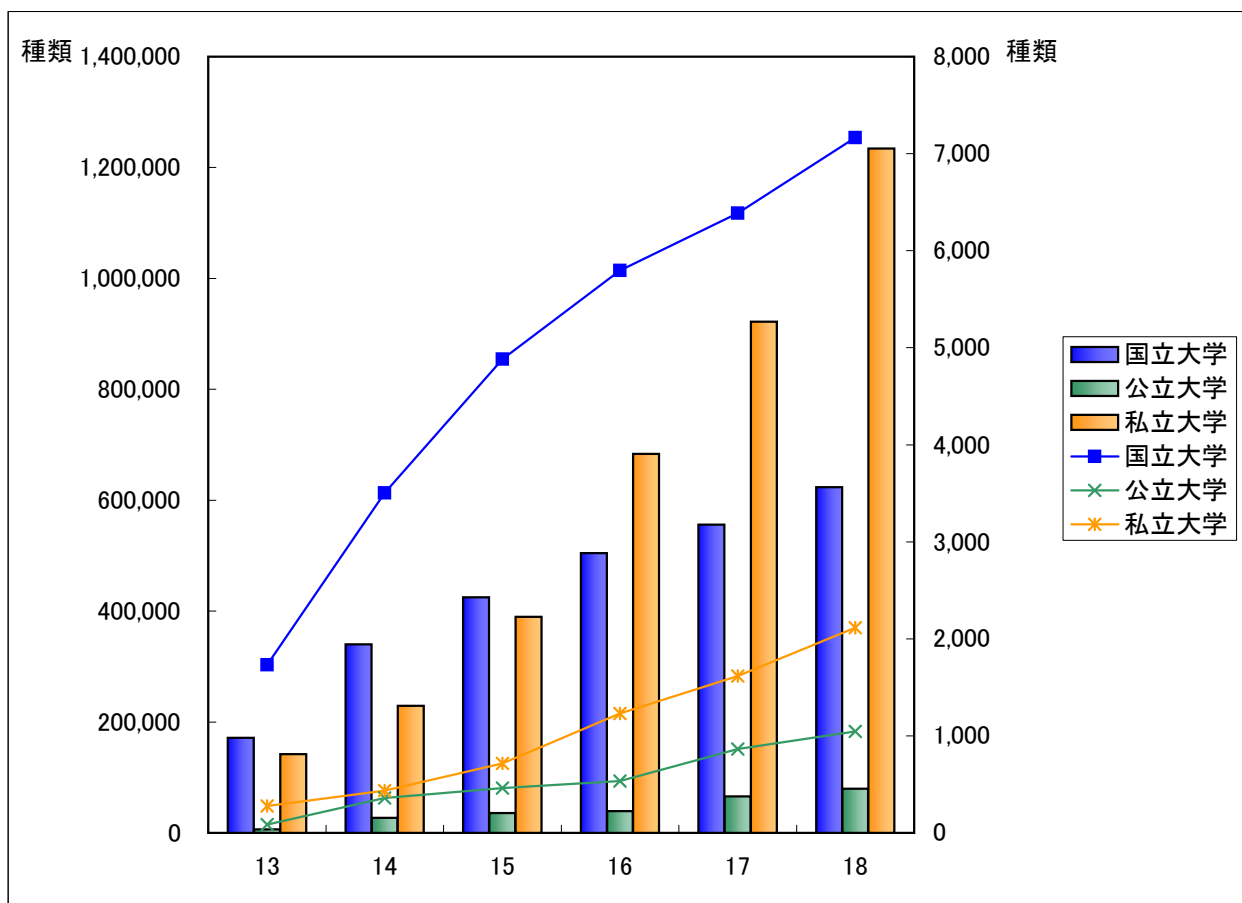
年度	8	14	15	16	17	18
国立大学	1.1	1.1	1.1	1.0	0.8	0.9
公立大学	1.9	1.5	1.4	1.4	1.2	1.2
私立大学	1.7	1.5	1.6	1.7	1.4	1.3
合計	1.5	1.4	1.4	1.4	1.2	1.2

・大学総経費に占める図書館運営費の割合 (各年度実績) (折れ線グラフ) 単位: %

年度	8	14	15	16	17	18
国立大学	1.3	1.2	1.1	1.0	0.9	0.9
公立大学	2.4	2.3	2.0	1.9	1.7	1.7
私立大学	2.6	2.2	2.2	2.3	2.1	1.7
合計	2.1	1.8	1.8	1.8	1.6	1.4

# 電子ジャーナルの総利用可能種類数と平均利用可能種類数

(出典: 学術情報基盤実態調査)



・ 総利用可能種類数 (年度末日現在) (棒グラフ) 単位: 種類

年度	13	14	15	16	17	18
国立大学	171,422	340,012	424,843	504,356	555,702	623,420
公立大学	6,479	27,405	35,613	38,986	65,561	79,591
私立大学	141,826	229,129	389,647	683,810	922,076	1,234,319
合計	319,727	596,546	850,103	1,227,152	1,543,339	1,937,330

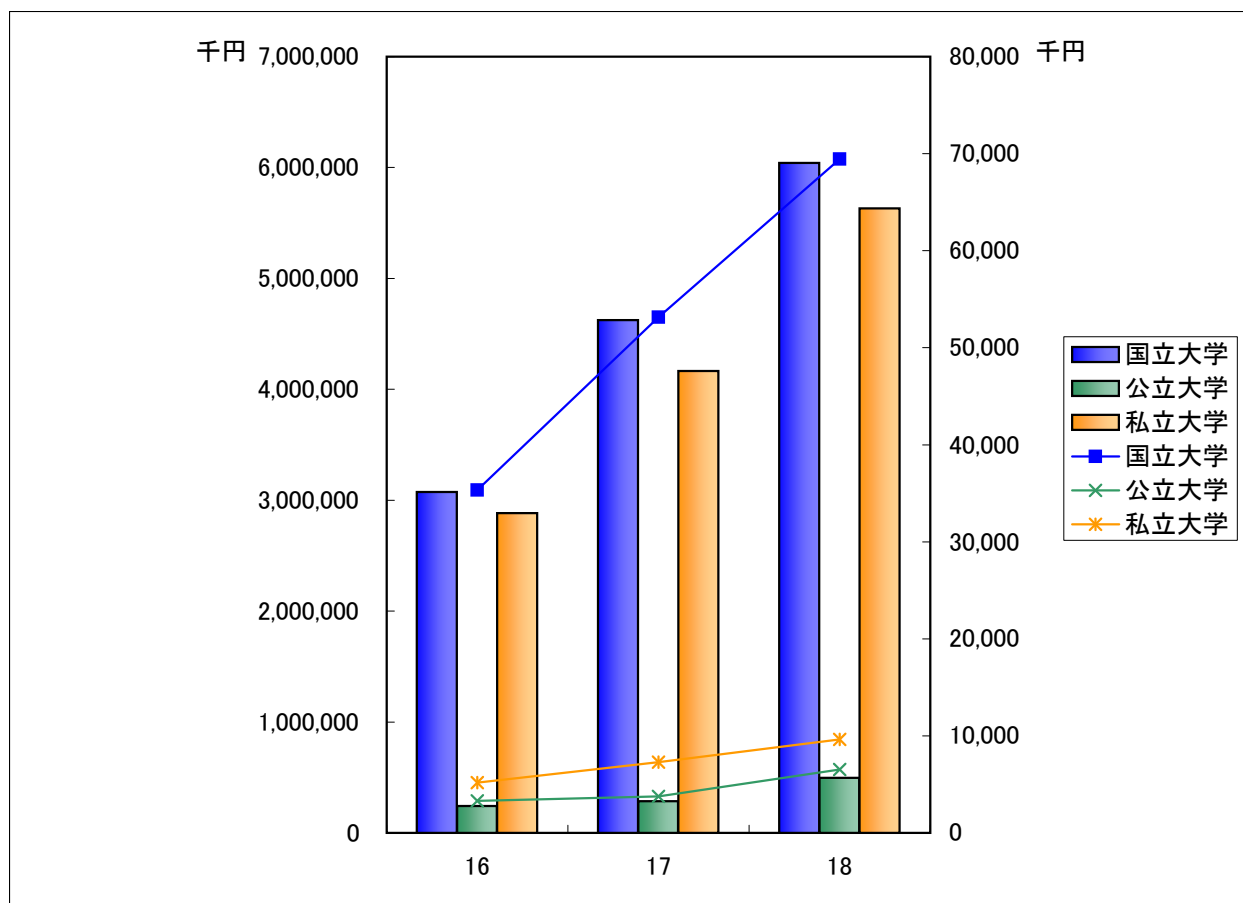
・ 平均利用可能種類数 (年度末日現在) (折れ線グラフ) 単位: 種類

年度	13	14	15	16	17	18
国立大学	1,732	3,505	4,883	5,797	6,387	7,166
公立大学	86	361	463	534	863	1,047
私立大学	277	436	716	1,230	1,615	2,114
合計	466	853	1,201	1,714	2,103	2,593

※種類数はいずれも延べ数

## 電子ジャーナルに係る総経費と平均経費

(出典: 学術情報基盤実態調査)



・総経費（年度末日現在）（棒グラフ） 単位：千円

年度	16	17	18
国立大学	3,073,447	4,623,423	6,040,396
公立大学	241,746	286,427	496,134
私立大学	2,882,693	4,165,488	5,633,131
合計	6,197,886	9,075,338	12,169,661

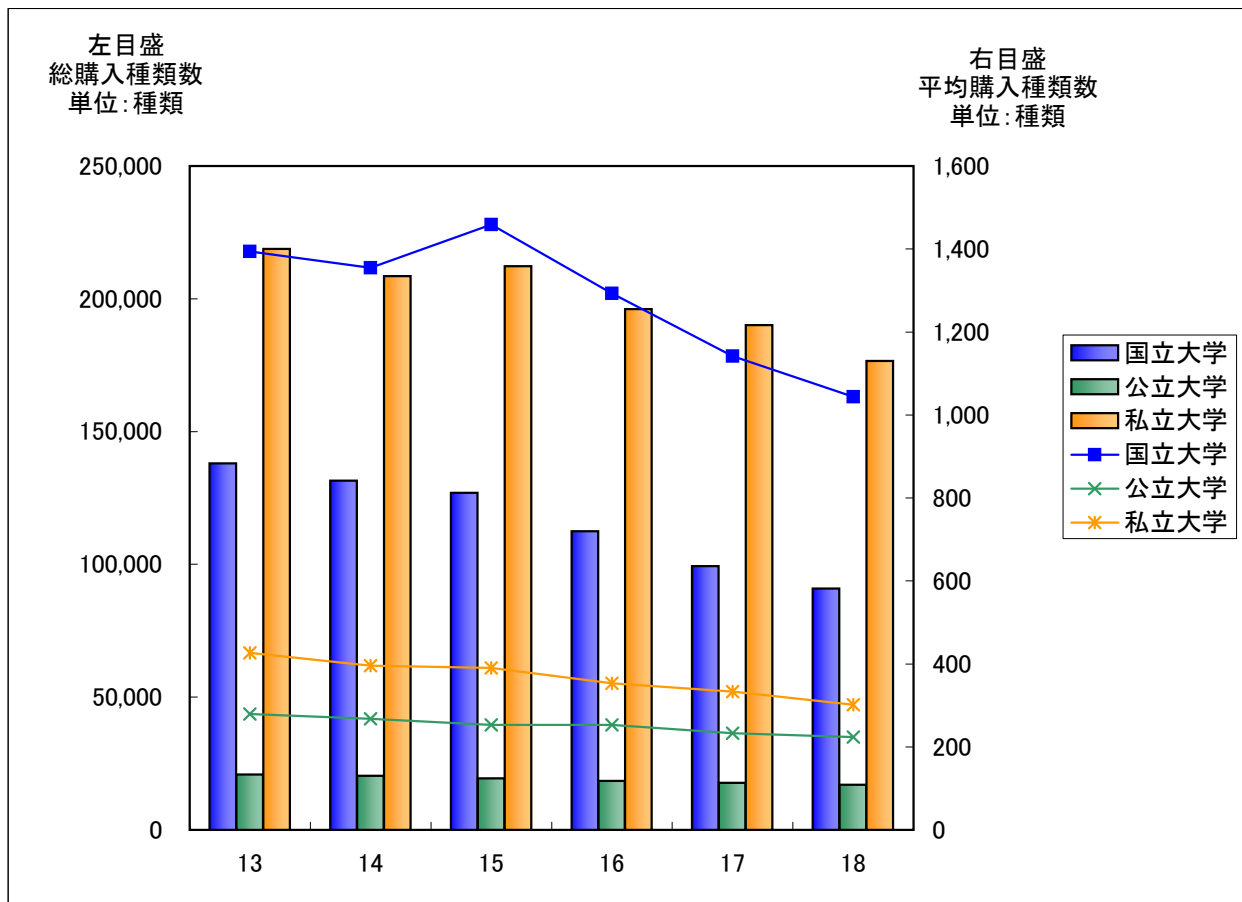
・平均経費（年度末日現在）（折れ線グラフ） 単位：千円

年度	16	17	18
国立大学	35,327	53,143	69,430
公立大学	3,312	3,769	6,528
私立大学	5,185	7,295	9,646
合計	8,656	12,364	16,291

(注) 本件調査は平成16年度より実施

## 洋雑誌の総購入種類数と平均購入種類数

(出典: 学術情報基盤実態調査)



・洋雑誌の総購入種類数 (年度末日現在) (棒グラフ) 単位: 種類

年度	13	14	15	16	17	18
国立大学	138,028	131,472	126,968	112,501	99,381	90,869
公立大学	20,910	20,376	19,461	18,489	17,688	17,050
私立大学	218,815	208,532	212,280	196,092	190,089	176,576
合計	377,753	360,380	358,709	327,082	307,158	284,495

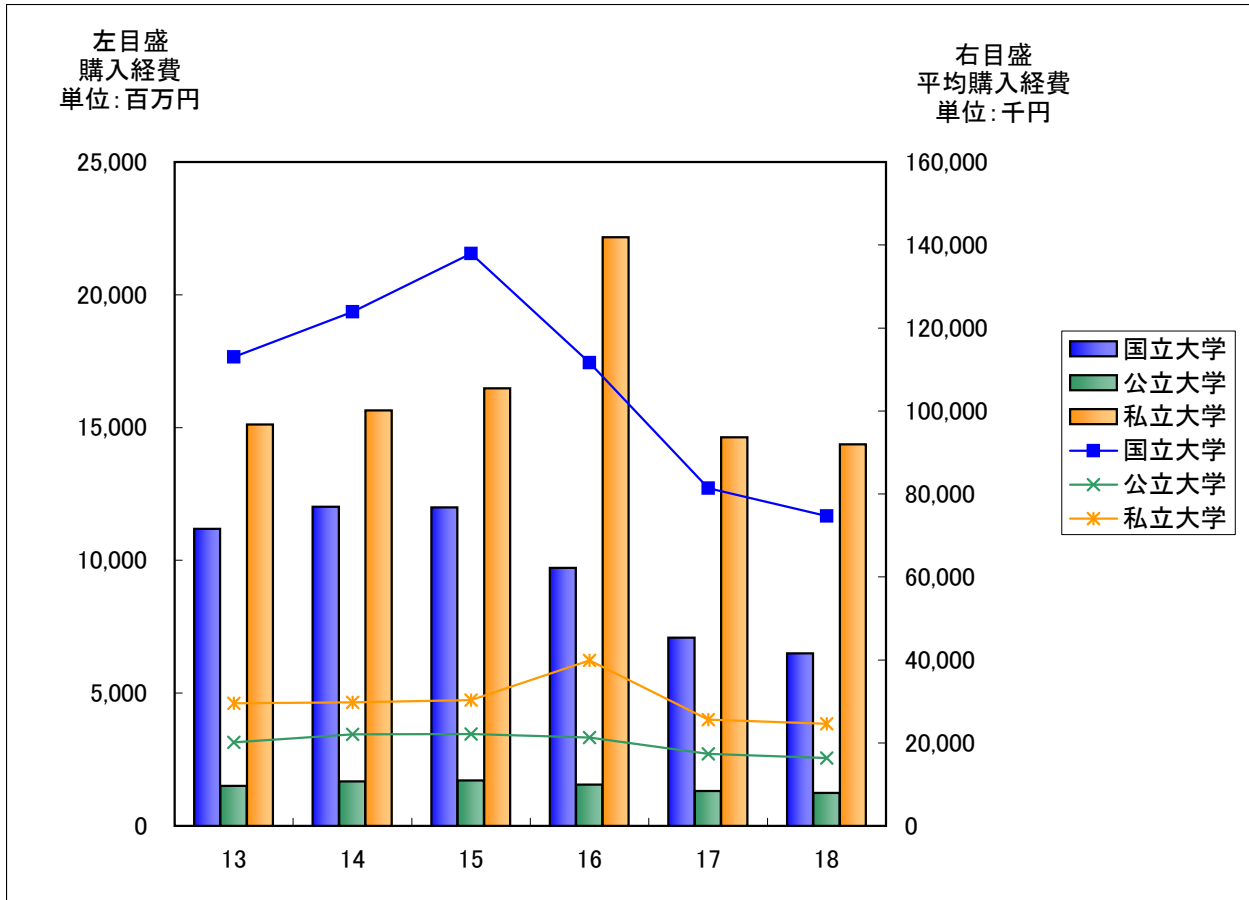
・洋雑誌の平均購入種類数 (年度末日現在) (折れ線グラフ) 単位: 種類

年度	13	14	15	16	17	18
国立大学	1,394	1,355	1,459	1,293	1,142	1,044
公立大学	279	268	253	253	233	224
私立大学	427	396	390	353	333	302
合計	551	516	507	457	418	381

※種類数はいずれも延べ数

## 洋雑誌の総購入経費と平均購入経費

(出典: 学術情報基盤実態調査)



・洋雑誌の総購入経費（年度末日現在）（棒グラフ）

単位：百万円

年度	13	14	15	16	17	18
国立大学	11,190	12,020	12,000	9,713	7,082	6,498
公立大学	1,512	1,677	1,707	1,554	1,317	1,245
私立大学	15,110	15,647	16,477	22,163	14,638	14,371
合計	27,812	29,344	30,183	33,431	23,037	22,113

・洋雑誌の平均購入経費（年度末日現在）（折れ線グラフ）

単位：千円

年度	13	14	15	16	17	18
国立大学	113,030	123,921	137,927	111,648	81,404	74,685
公立大学	20,159	22,064	22,165	21,294	17,324	16,378
私立大学	29,511	29,747	30,288	39,861	25,635	24,607
合計	40,542	41,980	42,631	46,691	31,385	29,602

# オープンアクセスに関する声明

～ 新しい学術情報流通を目指して ～

平成 21 年 3 月 16 日  
国立大学図書館協会

学術研究成果への自由なアクセスは、学術研究推進の不可欠の要素であると共に、今後の科学や社会の発展の基盤である。そして、大学図書館は、紙媒体とデジタル媒体の学術情報の収集・整理・提供を行うことで、学術の発展と社会の進歩に寄与することを、その重要な使命と認識している。そのため、国立大学図書館協会は、オープンアクセスへの支持と促進を強く訴えるものである。

1990 年代から、情報のデジタル化とインターネットが急速に普及することにより、学術情報流通を生産者である研究者の主導のもとに取り戻し、人類の共通資産とするオープンアクセス運動が起こった。オープンアクセスとは、2002 年のブダペスト宣言でも確認されているように、「インターネット上で論文全文を公開し、無料で自由にアクセスできる」ことである。オープンアクセス実現のため、これまでに関係者が様々な運動を行ってきた。一方、大学図書館でも、オープンアクセスに対応するため、学術機関リポジトリの整備等に努めている。しかし、オープンアクセスは、多くの関係者の協同で成り立つものである。

このような状況に鑑み、国立大学図書館協会は、新しい学術情報流通を支えるため、オープンアクセスの実現に向けて、すべての関係者に以下の呼びかけを行うものである。

## 政府及び公的助成機関へ

- 1 公的助成を受けた研究成果のオープンアクセスの促進に必要な政策を進める。
- 2 文化遺産のデジタルデータと研究データのオープンアクセスを促進する。

## 研究者へ

- 1 自らの研究成果を広く国民に公開するためオープンアクセスへの支持と協力を行う。
- 2 学術機関リポジトリへのセルフアーカイビングに努める。
- 3 自らの研究成果の著者としての権利、つまり、自らの論文を教育・研究目的又は非営利目的で使用する権利を留保するように努める。

## 大学・研究機関へ

- 1 所属する研究者の研究成果のオープンアクセスの促進を支援する。
- 2 所属する研究者の研究成果の発信機能（学術機関リポジトリ）の整備に努める。

## 学協会へ

- 1 所属する研究者の研究成果を広く国民に公開するためオープンアクセスへの支持と協力を行う。
- 2 自らが出版した雑誌に関して、論文の公開制限（エンバーゴ）期間の短縮と学協会版の論文の学術機関リポジトリへの提供等を通してオープンアクセスを推進する。

## 出版社へ

- 1 オープンアクセスへの理解とその実現への協力を促進する。
- 2 著者の権利を尊重し、出版に必要な権利のみを著者に求め、研究成果の活用を促進すること。
- 3 論文の公開制限（エンバーゴ）期間の短縮と出版社版の論文の学術機関リポジトリへの提供等を通してオープンアクセスを推進する。

## 大学図書館へ

- 1 図書館利用者やその他の関係者に対し、オープンアクセスへの支持と協力を呼びかけると共に、教員や研究者と協力してオープンアクセスを推進する。
- 2 オープンアクセス及び大学からの研究成果の発信源として、学術機関リポジトリの整備に努める。



# 学術機関リポジトリ構築連携支援事業 (IR: Institutional Repository)

学術機関リポジトリ (Institutional Repository) は、大学及び研究機関で生産された電子的な知的生産物を保存し、原則的に無償で発信するためのインターネット上の保存書庫として、以下の意義を有する。

- ・大学の研究教育成果の積極的な情報発信
- ・社会に対する大学の研究教育活動の説明責任の保証
- ・大学で生み出された知的生産物の長期保存
- ・商業出版社が独占する現行の学術出版システムに対する代替システム

国立情報学研究所では、平成17年度から機関リポジトリの構築と連携を促進するために、委託事業を実施。

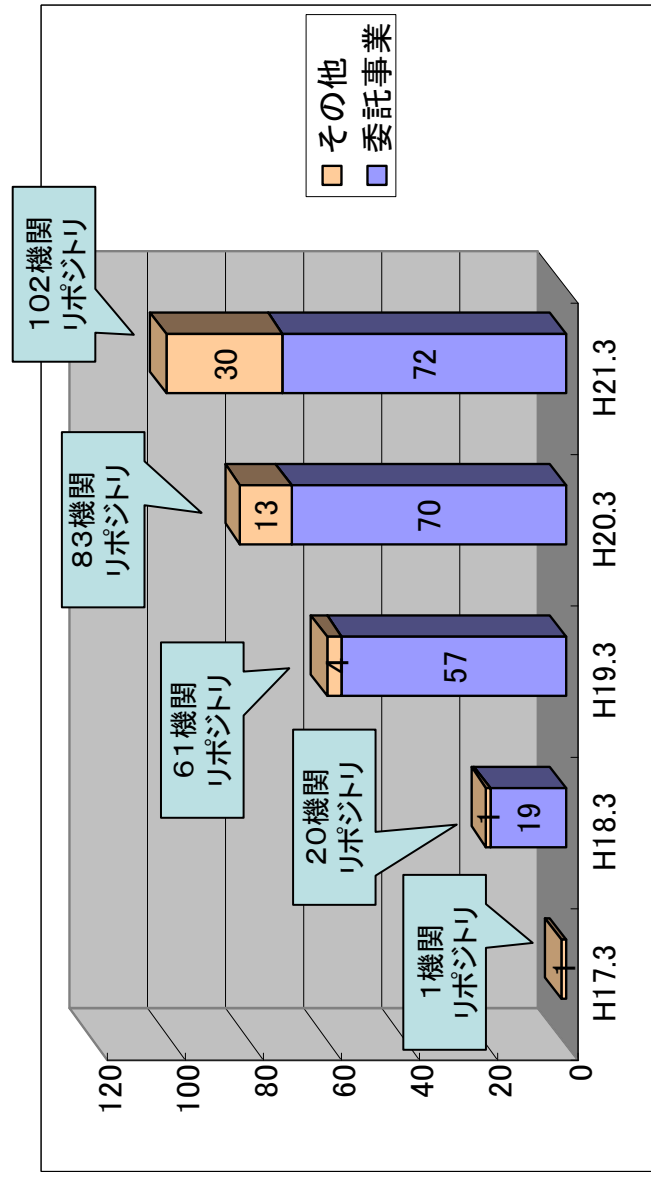
## ○「機関リポジトリ構築連携支援事業」委託機関数

年度	委託機関数
H17	19大学
H18	57大学
H19	70大学
H20	72大学

※ 複数年度継続実施している大学 (機関) を含む。



## 日本の機関リポジトリ運用状況



※ その他は、委託機関以外で公開している機関。  
 ※ 委託事業は、試験運用を含む。

## オープンアクセスに関連する取り組み

### ○ 電子図書館(NII-ELS)

我が国の大学、学協会の協力を得て、研究紀要や学協会の刊行する学術雑誌掲載論文を電子化し公開するデータベース(一部、本文情報も収録)事業を国立情報学研究所(NII)が実施。NII論文情報ナビゲータ(CiNii)を通じて、検索サービスを提供。

学協会誌:約293万論文(299学協会)、研究紀要:約32万論文(750大学)

【参考】 CiNii全体の書誌情報:約1,200万件 (本文情報:約325万論文)

### ○ 国際学術情報流通基盤整備事業(SPARC Japan)

我が国の学協会等が刊行する学術雑誌の電子ジャーナル化を支援・強化し、米国SPARCなどとも連携し、海外への研究成果発信の一層の普及を推進する事業をNIIが実施。

45誌(28学協会)

### ○ J-STAGE

我が国の学協会の刊行する科学技術情報関係の電子ジャーナルの出版支援及び公開を推進する事業を科学技術振興機構(JST)が実施。

551誌(539学協会) 約25万論文

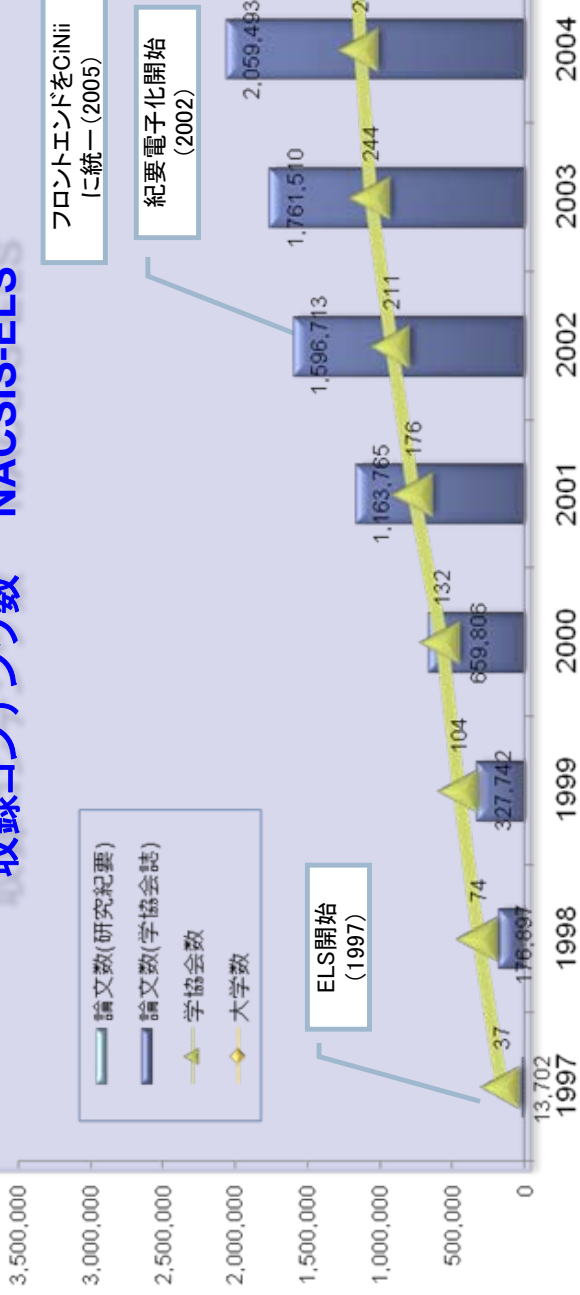
### ○ Journal@rchive

電子アーカイブ事業によって遡及電子化した国内学術雑誌を公開する事業をJSTが実施。

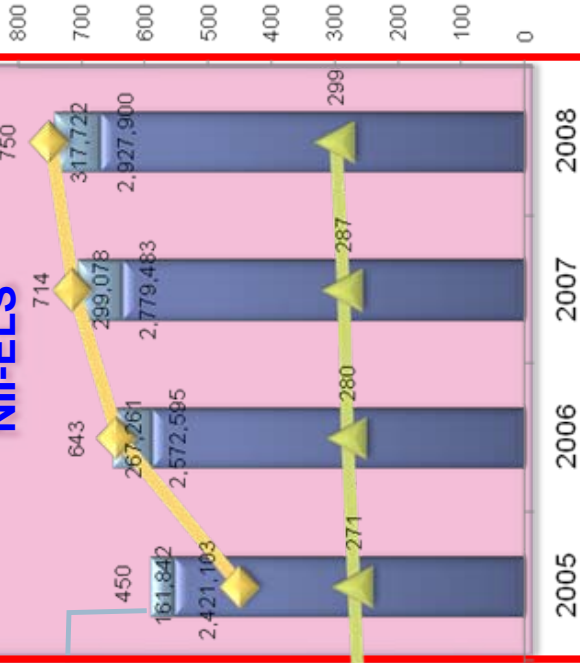
128誌(121学協会) 約65万論文

# (参考) NII-ELS/CiNii状況

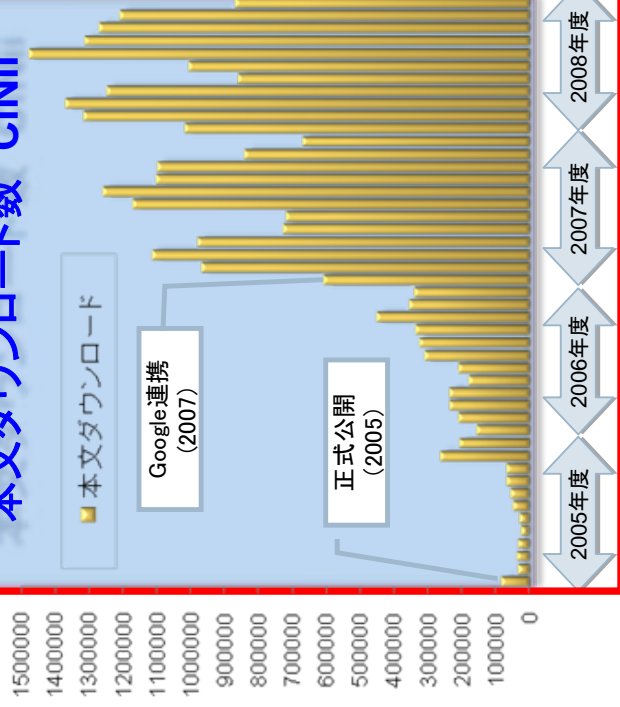
## 収録コンテンツ数 NACSIS-ELS



## NII-ELS



## 本文ダウンロード数 CiNii



## □ 学協会誌+紀要で約325万論文の本 文情報にアクセス可

- 前身のNACSIS-ELS開始以来10年間で蓄積
- CiNii提供の書誌情報(1,200万件)の約3割

□ 月間150万ダウンロード

## (参考) NII-ELS:分野別収録雑誌数

	学会誌・論文誌 雑誌数	無料一般公開数 (*1)	初号から 電子化している 雑誌数 (*2)	無料一般公開数 (*3)	研究会資料 ・技術報告 雑誌数
人文科学	100	46 (46%)	76 (76%)	36 (47%)	19
法学	4	4 (100%)	3 (75%)	3 (100%)	1
経済学	26	17 (65%)	17 (65%)	11 (65%)	3
理学	101	51 (50%)	73 (72%)	36 (49%)	58
工学	296	141 (48%)	195 (66%)	110 (56%)	212
農学	72	53 (74%)	53 (74%)	35 (66%)	27
医学	115	84 (73%)	77 (67%)	61 (79%)	22
小計	714	396 (55%)	494 (69%)	292 (59%)	342
大学 研究紀要	5,526				
合計	6,582				

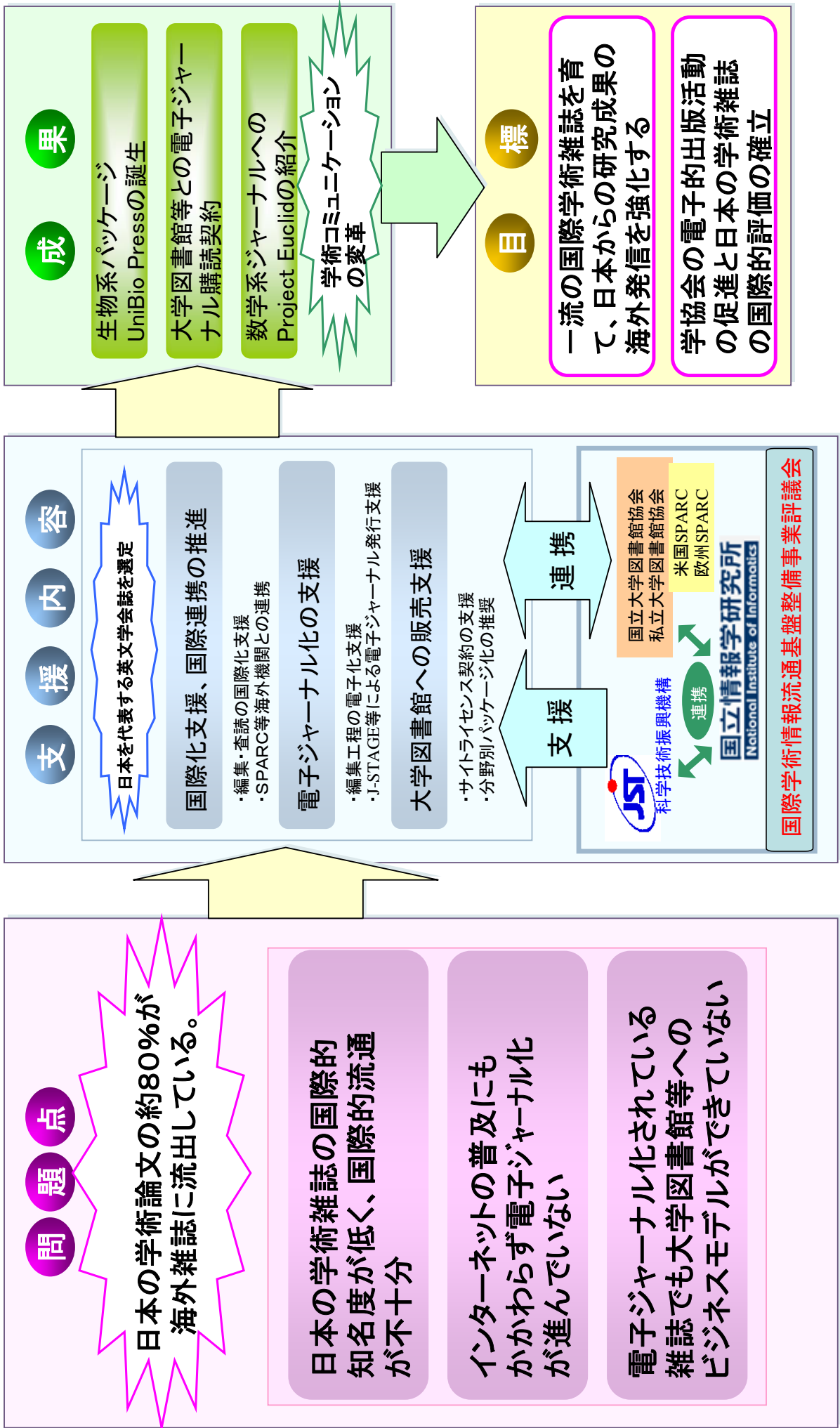
\*1: 学会誌・論文誌のうち無料一般公開している雑誌数とその割合

\*2: 学会誌・論文誌のうち初号から電子化している雑誌数とその割合

\*3: 初号から電子化している雑誌のうち無料一般公開している雑誌数とその割合

平成20(2008)年9月末現在

# (参考) 国際学術情報流通基盤整備事業 (SPARC Japan)



**我が国の研究開発活動の  
基盤を成す学協会に対し、  
ジャーナルの電子化・発信を支援**

**J-STAGE**

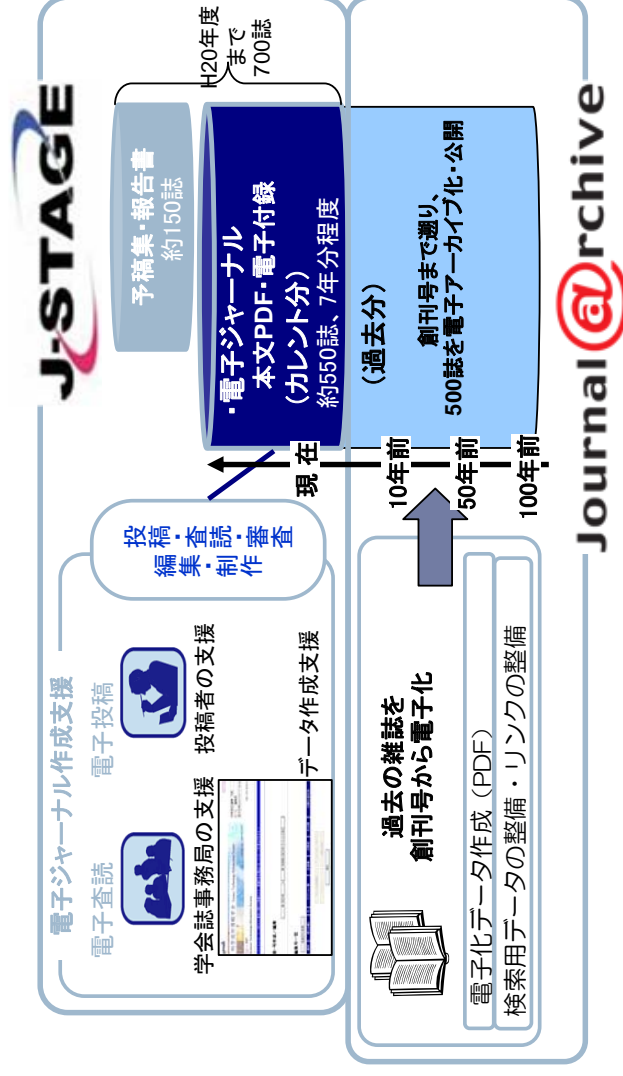
論文の投稿から査読、公開までを  
一貫して電子的に支援

※利用学協会数 約540学協会  
(平成21年4月現在)

**Journal@rchive**

重要な論文誌を創刊号から  
電子化することで我が国の  
知的資産の保存と流通促進を図る

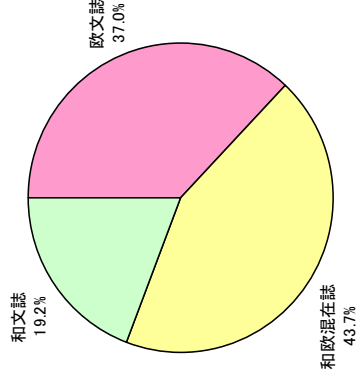
※平成23年度までに500誌を  
アーカイブ予定



**J-STAGE登録誌**

**言語別割合**

(平成21年4月現在)



**J-STAGE登録誌**

**閲覧方式別割合**

(平成21年4月現在)

